

# 原子力防災対策について（その4）

## ◆PAZとUPZ◆

### ◇PAZ (Precautionary Action Zone)

原発から概ね半径5kmの地域  
(小田野沢、老部、白糠地区)

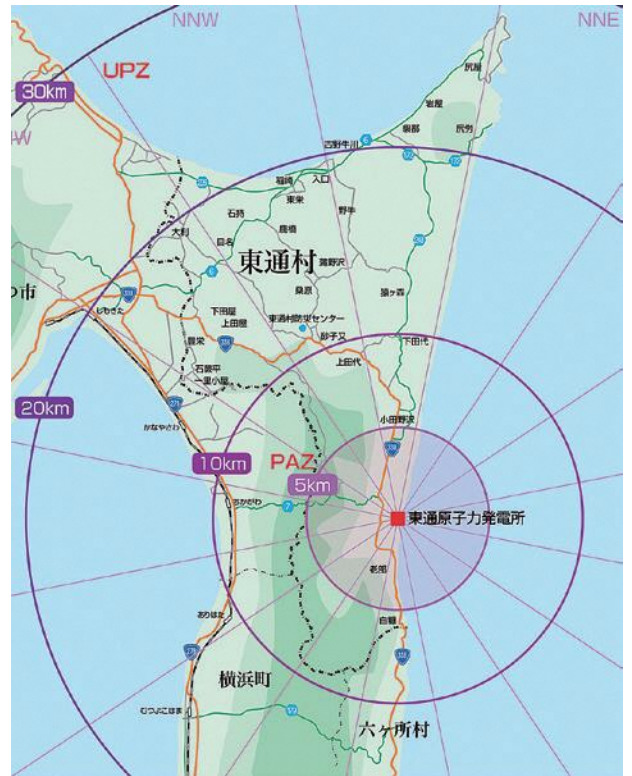
※原子力発電所の状況に応じて避難する区域となります。

### ◇UPZ (Urgent Protective action planning Zone)

原発から概ね半径5～30kmの地域  
(上記地区以外の村内全域)

※原子力発電所の状況に応じて屋内退避するとともに、放射線の量に応じて対策を講じる区域となります。

●原子力災害発生時は、村などの指示に従い、落ち着いて行動してください。



〈問合せ先〉原子力対策課 ☎ (直通) 33-2268

## 今日の『ひがしとおひ小話』

## No. 4 尻屋崎灯台と斗南藩との関わり

戊辰戦争に敗れ、当地へ移り住んだ会津藩士は、この地に斗南藩を立藩。尻屋崎灯台の建築に藩士たちが尽力したと伝えられています。

尻屋崎周辺は、潮流が激しくまた東風による濃霧も発生するため、古来から多くの船舶が座礁・遭難する危険な海域でありました。そのため明治初期から、尻屋崎に灯台を設置しようという運動がありました。

そこで斗南藩は、明治4年(1871年)に尻屋崎灯台建設について新政府へ請願し、その5年半後の明治9年(1876年)に、悲願の灯台が竣工されました。

灯台建設への斗南藩士の貢献については様々な検証がなされており「斗南藩が深く大きくかかわった尻屋崎灯台建設」としての有力な情報も出てきております。

先人たちの尽力により建設された尻屋崎灯台が、今もなお村のシンボルとして存在していると思うと、尻屋崎灯台に足を向けて寝れませんね。



斗南藩士上陸の地から望む釜臥山(むつ市大湊)



複数構造のレンガ壁を見ることができます